

第三学年一組 社会科学学習指導案

指導者 小郡市立立石中学校 齊藤 蒼

1 単元 「生産と労働」

2 指導観

- 現在、厚生労働省は「働き方改革」の実現に向けて、リモートワークや週4日制、フレックスタイム制など多様な働き方を推奨している。しかし、現在も長時間労働や低賃金、パワーハラスメントなど多くの労働に関する問題は後を絶たない。また、人口減少や少子高齢化の影響を受けて、労働者の確保をねらいとする定年年齢の上昇、公的年金の問題から資産形成を推奨する動きもでてきた。このような状況の中を生きていく中学生にとって、本単元は生産のしくみや労働の権利、資産形成の一つである株について知る大切な単元であると考えます。「どのようにして生産活動が行われてきたのか」「株式会社とは何か」「労働者にはどのような権利が認められているのか」など最も基本的な生産のしくみから権利について学び、これからの日本を支える主権者としてどのように生産活動と関わっていくかを考える上で大変意義深い単元である。
- 本学級の生徒（男子10名、女子14名）は、全体的に学習意欲は高く、予習・復習を行う生徒も多々いる。授業中は全員が真面目に取り組み、発言もあるが、発言する生徒が一部に偏っているのが現状である。事前に行ったアンケート調査によれば、公民科の授業が好きかという質問に対して「はい・どちらかと言えばはい」と答えた生徒が約7割近くいた。日本の政治の仕組みや人権など身近な現代社会を学ぶことに関心を持つ生徒が多々いた。今回の単元にも関係のある職業の質問では、「職業選びの際に重視したいこと」に関して給料面や雇用の面を重視する意見が出ており、ブラック企業や長時間労働などの労働問題に関する意見もでていた。また、「将来の、投資を行ってみたいか」という質問に対しては「どちらかと言えばいいえ・いいえ」を選ぶ生徒が7割近くであった。特に、お金が減る事への不安や詐欺などの反対意見が多々出た。だからこそ今回の授業で労働や株についてしっかり正しい知識を身につけさせる必要があると考えます。また、「最近ニュースを見るか」という質問に対して、多くの生徒が見ないという意見であった。時間がない、あまり興味がないなど社会に対しての関心が低いこともうかがえる。今回の授業を通して社会の出来事にも目を向ける態度も養いたい。
- 本単元の指導では、現代社会の時事やそれに関する事象データなどの資料の考察を行い、これからの労働と自分達との関わり、社会全体との関わりまで考えられるようにさせたい。

そのために、まずは生産の仕組みを資料から捉え、企業が生産活動を行うことで、私たちの生活が豊かになってきたこととその労働力が自分たちであることに気づかせる。そして、「これから生きる私たちは、生産活動とどのように関わっていくべきだろうか」という学習課題を設定する。

次に企業の種類や株式会社の仕組み、勤労の権利・法律など基本的な知識を理解させる。その時に、社会の時事や事象データを提示して、株価の変動や現代社会の労働問題についての考察も行う。

最後に、学習課題に対してまとめをさせる。その時に消費者の視点と労働者の視点で自身がどのように生産と関わることができるか考えさせたい。

3 単元の目標

- ・ 生産活動や株式会社の仕組み、勤労の権利と義務、労働組合の意義及び労働基準法の内容について理解する。 【知識・技能】
- ・ 企業の経済活動における役割と責任、株価の変動、社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善について多面的・多角的に考察し、表現する。 【思考・判断・表現】
- ・ 生産の場としての企業について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする態度を養う。 【主体的に学習に取り組む態度】

4 単元指導計画（計 8 時間）

次	時	学習活動・内容	指導のねらい・内容・方法
一	1	1 生産活動と企業について考える。 (1) 私たちの生活に必要なものがどのように生産されているかを調べる。 (2) 生産における分業と交換の良い点を、効率の観点から考察する。	○ 生産の仕組みを理解するために、身近なものを例に挙げ、生産に必要なものを想起させる。 ○ 分業と交換の良い点を理解するために、資料を提示し、考察させる。
これから生きる私たちは、生産活動とどのように関わっていくべきだろうか？			
二	1	2 企業の種類と株式会社の仕組みを理解する。 (1) 企業を調べる。 (2) 企業がどのような社会的責任を果たしているか調べる。 (3) 株式会社の仕組みについて理解する。 (4) 株主の権利や責任について、配当や投資と関連つけて、考察する。	○ 企業の種類を理解するために、知っている企業を挙げさせ、企業の種類事にグループ分けする。 ○ 企業の社会的責任とは何かを理解するために、ブリヂストンを例に、調べさせる。 ○ 株式会社の仕組みを理解するために、図式化した資料をもとに、資金の流れから企業と株主の関係や生産活動について読み取らせる。
	2	3 株価の変動について考察する。 (1) 株価の変動要因を理解する。 (2) 株価の変動要因をもとに、2019年12月～2020年5月までの株価の分析をする。 (3) 実際の企業から、これから期待できる企業を選ぶ。	○ 業績や社会の情勢が株価に影響を与えることに気づかせるために、2つの企業の株価がどのように変動したかを考えさせる。 ○ 新型コロナウイルス感染症が株価に影響を与えたことを気づかせるために、株価の分析をさせる。そのときに、業績に関係なく株価が上下することも気づかせたい。 ○ これから期待できる企業を選ぶために、現在の日本や世界の情勢をもとに分析させる。
	3	4 労働の意義と労働者の権利について考える。 (1) 労働者の権利を守るための取り組みについて理解する。 (2) 多様な働き方が求められている背景を、個人の尊重の観点から考察する。	○ 労働者を守る仕組みを理解させるために、労働三法で定められている内容が労働者の権利とどのように結びついているかを考えさせる。 ○ 労働に関わる様々な問題があることに気づかせるために、資料や事例を提示し、調べる。
三	1	5 労働環境の変化と課題を考える。 (1) 労働をめぐる環境の違いについて理解する。 (2) 労働環境の変化と課題について考察する。	○ 自らの将来の職業について関心を高めさせるために、資料や事例から、現在の労働環境の変化と課題について気づかせる。
	2	6 生産と労働についてまとめる。 (1) よりよい社会を築いていくために、自分たちは生産活動とどのように関わるか考える。	○ よりよい生産活動を行うために、自分たちの関わりが必要であることを気づかせるために、生産活動とどのように関わるか考えさせる。そのときに、消費者・労働者それぞれの視点から考えさせたい。

(1) 本時の指導観

- 生徒は前時までに、株式会社の仕組みと株主の権利と責任、株は売買によって株価が上下することを学習している。そこで本時では、株価の変動を分析し、株価に与える要因について考えさせることで、業績や社会の出来事、経済の動きが影響を与えていることに気づかせたい。

(2) 主 眼

- 株価の変動は、社会の動きや経済の動きと関連していることに気づくことができる。
- 株価の変動を社会の動きなどに関連付けながら考察し、表現することができる。

(3) 準 備

- 教科書、学習プリント、タブレット

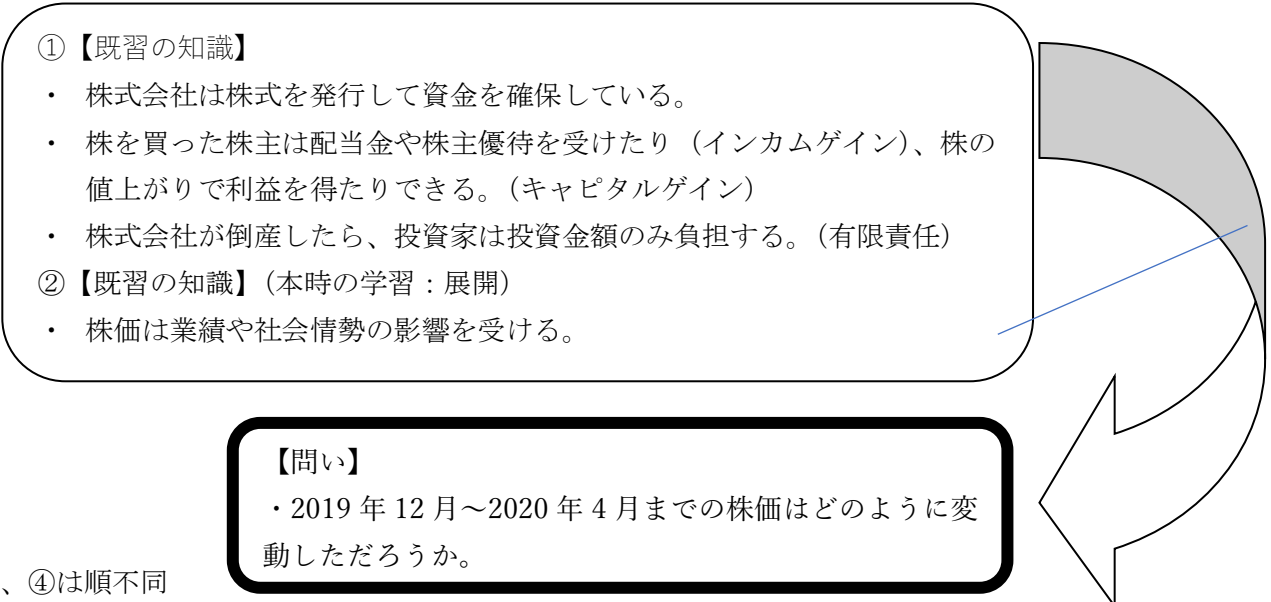
(4) 展 開

	学習活動・内容	形態	指導上の留意点	評価規準・評価方法	配時
つかむ	1 今日の学習活動について知る。 ・投資家として株価の分析をしていくこと	全	○ 生徒の株に対する認識を確認するために、アンケートの結果を提示する。		5
めあて 株価の変動に影響を与える要因を分析し、株価の変動を予想しよう。					
さぐる	2 企業の株価の動きをみて、なぜ変動したのかを考える。 ・企業の業績によるもの（任天堂の株価の変動） ・社会の動きによるもの（株式会社日本道路）	全	○ 株価の変動要因を分析するために、特徴ある二社の株価の変動チャートを提示する。	株価の変動は、社会の動きと関連していることを理解できる。	5
	3 2019年12月～2020年5月までの株価を分析する。 （1）個人で考える。 〈Jストリーム〉 ・需要が増え株価は上昇した。 〈ウエルシアHD〉 ・利用者が増えたので、株価が上がった。 〈キッコーマン〉 ・利益が上がり株価も上がっている。 〈アサヒビール〉 ・売り上げが下がっているので株価も下がっている。	個 ↓ 班 ↓ 全	○ 株価の変動要因を理解させるために、株価の変動とその原因を考える。 ※書く活動Ⅱ ○ 考えを深めるために、個人で考えた意見を班で交流させ、全体でも発表させる。	株価の変動を社会の動きなどに関連付けながら考察し、表現することができる。	25

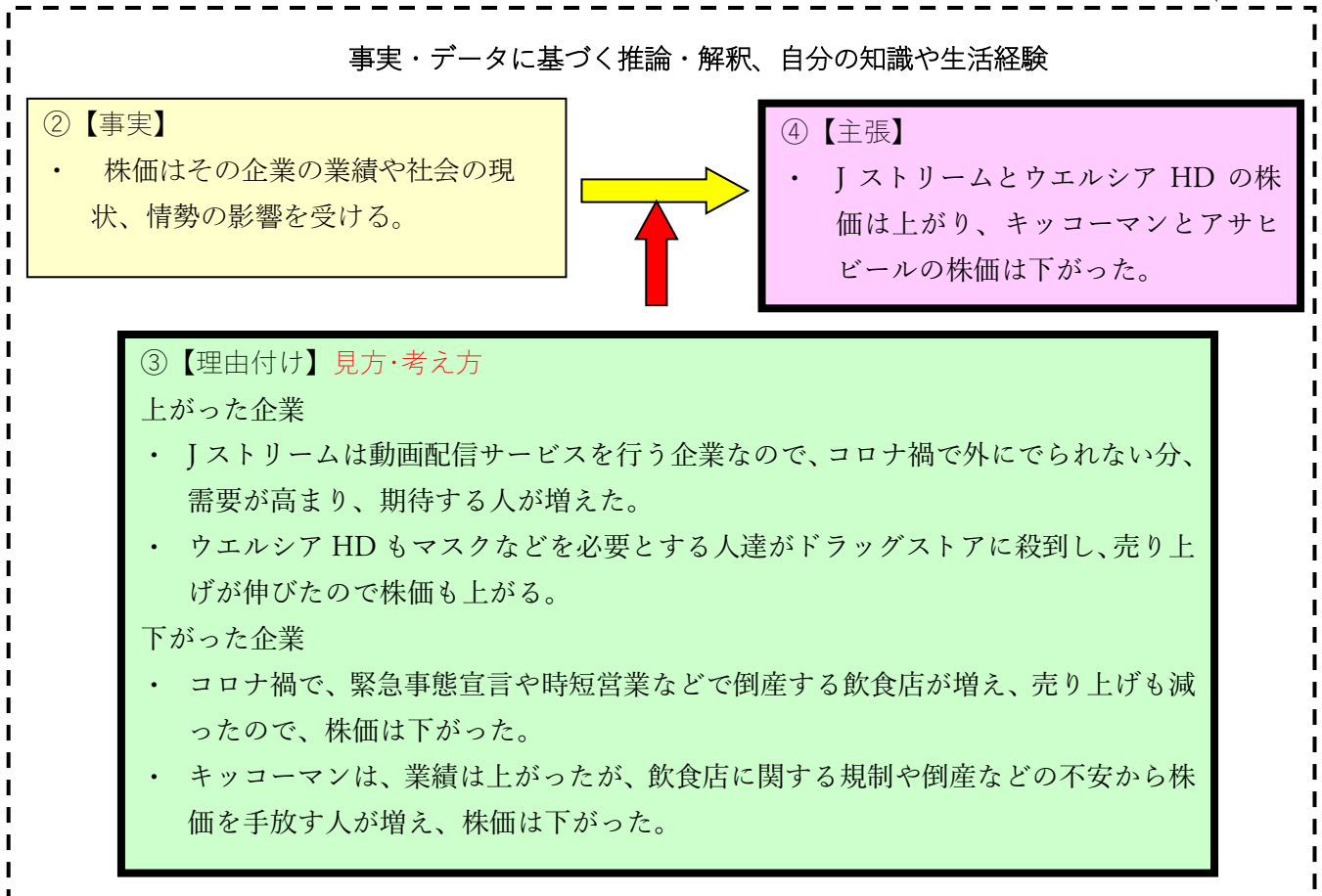
(5) 本時の「書く活動」の構想

- 主眼
- ・ 株価の変動は、社会の動きや経済の動きと関連していることを理解する。
 - ・ 株価の変動を社会の動きなどに関連付けながら考察し、表現することができる。

(1) 書く活動Ⅱ



②、③、④は順不同



(2) 書く活動Ⅲ【学んだ内容・自分の考えの変容・次回意識したいこと】

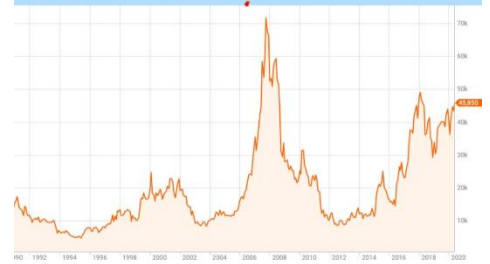
- ・ 株価の変動の要因はその企業の業績や社会の状況、国の政策などたくさんの要因があることが分かった。現在の日本では少子高齢化やグローバル化などの状況が見られる。次回はそういった日本で期待のできる企業を選びたい。

6. 授業の実際

(1) つかむ段階

ここでは、まず前時の株式会社の仕組みの振り返りを行い、株式会社は株式を発行して資金を得ること、株主の権利、株価は売買によって変動することを再確認した。その後、実際の株の値動きを見せ、一日の中でも株価が大きく変動することを捉えさせ、「株価の変動にはどのような要因があるのか」という課題に対して、資料を用いながら課題を解決することをねらいとした。

ある企業の株の変動



(2) さぐる段階

ここでは、株価の動きに与える要因を探るために、二つの企業の株価チャートと、その企業の業績や当時の様子が分かる新聞記事を掲示し、比較させることでその要因を読み取らせることをねらいとした。まず任天堂株式会社の要因を探った。株価の動きと業績を比較することで、その動きが連動していることを生徒に気づかせた。その次に株式会社日本道路の要因を探った。大きく値動きしている日付と新聞の記事を比較させることで、社会動き株価の動きに連動していることに気づかせた。比較を苦手としている生徒には、タブレットを活用しながら声掛けをおこなった。株価の要因に気づけたところで、「2019年12月30日～2020年5月1日までの株価の動きはどのようになるだろうか」という新たな課題を与え、資料をもとに考えさせた。

株価の要因を探る様子



生徒の記述①

○株価の分析

事実 株価は業績や社会の 重なり影響を受ける。	主張 ウエルシアHD → 上がった アサヒビール → 下がった キッコーマン → 上がった 出前館 → 下がった
-------------------------------	--

理由

- ウエルシア HD
コロナの流行でマスクや薬などの売上げが上がったと思う。
- アサヒビール
飲食店からビールを要する人が減った。
- キッコーマン
冷凍食品などで家で食事を摂る人が増え調味料などの売上げが伸びたから。
- 出前館
買い出しする人が減った。
- 出前館
フリーバーナー

生徒の記述②

○株価の分析

事実 相伝は業績や 社会の動きの影響を 受ける。	主張 ウエルシア → 上がった アサヒビール → 下がった キッコーマン → 上がった 出前館 → 上がった
-----------------------------------	--

理由

- ウエルシア HD
コロナウイルスがはやっているこの時代にマスクは必須だし、薬局はとて大事なところから。
- アサヒビール
アサヒビールの利益を見たら、下がっている。ビールの会社は他にあって負けと思う。
- キッコーマン
ウイルスがはやると外食は減るから、家で料理するために、たくさん買わなければならない。
- 出前館
また、なんか新しいウイルスが流行り飲食店ではなく出前館になったから。

生徒の記述③

○株価の分析

事実 相伝は業績や 社会の動きの影響を 受ける。	主張 ウエルシア → 上がった アサヒビール → 下がった キッコーマン → 下がった 出前館 → 上がった
-----------------------------------	--

理由

- ウエルシア HD
コロナウイルスの影響でマスクや薬などの売上げが伸びた。
- アサヒビール
コロナの影響で飲食店が閉店してビールを要する人が減ったから。
- キッコーマン
出前館サービスの普及により。
- 出前館
家で食べるという習慣が広がったから。

多くの生徒が業績や社会の影響を下に記述することができていた。しかし、主張においては主に3つに分かれることとなった。(記述①上昇：ウエルシア・キッコーマン、下落：アサヒビール・出前館) (記述②上昇：ウエルシア・キッコーマン・出前館、下落：アサヒビール・) (記述③上昇：ウエルシア・出前館、下落：アサヒビール・キッコーマン)

(3) ふかめる段階

ここでは四つの企業の株価の動きを確認した。結果としては、上昇したのはウエルシアと出前館で、キッコーマンとアサヒビールは下落した。業績と社会の影響が連動していることを確認した上で、四つの企業の株価の動きを確認したが、出前館とキッコーマンだけは業績と株価が連動していないという結果になった。そこでなぜそのような動きになったのか説明をし、株価は業績に関係なく動くことがあることを理解させた。生徒の振り返りでは「株価の要因には売上や社会の動きが影響していることに気づけた。」「もし選ぶときには、特に社会の動きに注目して選んでいきたい」という記述があった。

7. 成果と課題

- 株式学習は、ニュースやネットから投資という言葉に元々興味を持っている生徒も多く、生徒の興味関心を高めるための教材としては良かったと思う。
- 資料は多かったが、タブレットを活用しながら比較することで、生徒が株価の動きとそれらに影響を与える要因を視覚的に理解できたと思う。

- ツールミン図を使ってまとめさせる際には、再度、事実と結果を練り直す必要があると感じた。
- 株価を予想したときに生徒の主張にズレが生じたが、そこで新たな発問を行い、生徒の考えをさらに深めるための手立てを打つことができなかった。考えを深めるためにも、一度生徒達に「当時の投資家は何を考えたのか」考えさせるとさらに深めることができたと思う。